

[冬季直売用切花における低コスト・安定生産技術の確立]

スプレーストックにおける株間と摘心処理の効果

田旗裕也・岡澤立夫・小堀 恵*・山崎あゆみ*・吉原恵子*

(園芸技術科・*中央普セ)

【要 約】スプレーストック「カルテット」の直売切り花栽培において、条間 30cm 2 条植えでは株間 20cm の無摘心栽培で最大の収量を得られ、冬季期間中も収穫可能である。

【目 的】

アレンジメント利用が可能なスプレーストックは、都内直売切り花生産者の導入意欲が高い。そこで、都内でのスタンダードタイプストックで一般的な条間 30cm 2 条植えにおける株間と摘心処理を対照として、冬季連続収穫栽培技術の確立にむけた基礎調査を行った。

【方 法】

スプレーストック「カルテット」シリーズ 3 品種を供試した。2010 年 8 月 20 日にタキイセル培土 TM-2 充填の 200 穴セルトレイへ 1 穴 1 粒で播種し、10 月 6 日にガラス温室内に定植した。定植方法は 1 畝 2 条 (条間 30cm) 栽培で、①株間 30cm (480 株/a)、②25cm (580 株/a)、③20cm (720 株/a) とした。また半数の個体は、10 月 28 日に本葉約 10 枚を残して主茎を摘心し、株間と摘心処理の有無を合わせた 6 水準の試験区を設けた (1 区最低 24 株)。なお、全個体とも側枝整理は行わず、栽培温室は無加温 20℃換気設定 (2011 年 1 月 31 日 6:30 最低気温 -3.1℃ 記録) で管理した。基肥は、被覆複合肥料 14-12-14 (エコロング 424 140 日タイプ) および過リン酸石灰により、3 要素各成分量 3.0kg/a とし、追肥は液肥 20-20-20 の適宜施用 (N=200ppm) とした。

収穫適期は 3 輪開花時とし、側枝収穫では切り下 3 節残しとした。収穫期と切り花長別の収穫本数を調査した。切り花長は茎曲がり調整切除後とし、調整前長さに占める切除部分の比率および収穫物下位節の茎径を調査した。4 月 24 日を実験終了日とした。

【成果の概要】

1. 「カルテットホワイト」は株間 25 と 20cm の無摘心栽培で、冬季 (1 月 11 日から 3 月 10 日) 期間中に調整後切り花長 30~45cm で収穫できた。摘心栽培は、収穫が 4 月 11 日以降に遅れる傾向があり、30cm 未満の収穫物が拡大した (図 1)。
2. 条間 30cm 2 条植え 4 畝栽培を想定すると、「カルテットホワイト」の収量は、摘心の有無にかかわらず株間 20cm および株間 25cm 無摘心栽培で多かった。「カルテットアプリコット」は、株間 20cm 無摘心栽培で最も収量が多かった (図 2)。
3. 「カルテット」3 品種は株間 20cm 無摘心栽培で冬季期間中の収穫が可能だった。「カルテットピンク」は、卒入学時期に切り花長 45cm 以上の良品が得られた (図 1・3)。
4. 「カルテット」3 品種の切り花長は、品種間差の影響が大きいと考えられる。「カルテットアプリコット、カルテットピンク」の株間 20cm 栽培は、摘心による調整率減少 (= 茎曲がり縮小) と茎径減少への影響は小さかった (表 1)。
5. まとめ: 都内直売切り花生産における条間 30cm 2 条植え栽培では、株間 20cm の無摘心栽培が適当である。今後、年内収穫量拡大にむけて、播種時期の検討を行う。

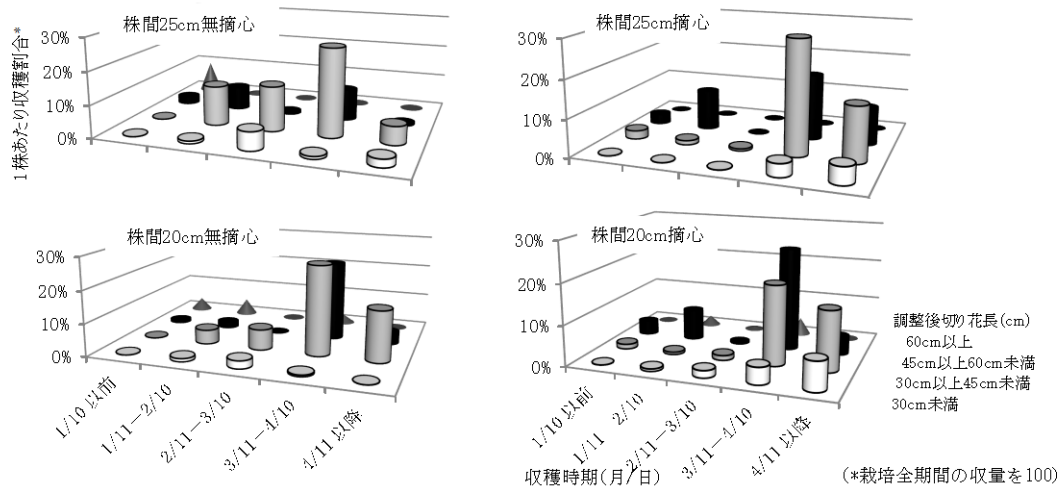


図1 「カルテットホワイト」収穫時期と株あたり切り花長別収穫割合に及ぼす株間と摘心処理の影響

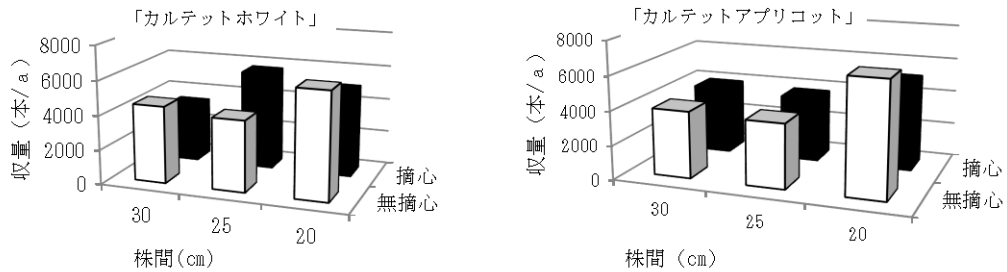


図2 「カルテットホワイト、アプリコット」の収量に及ぼす株間と摘心処理の影響（全量可販）

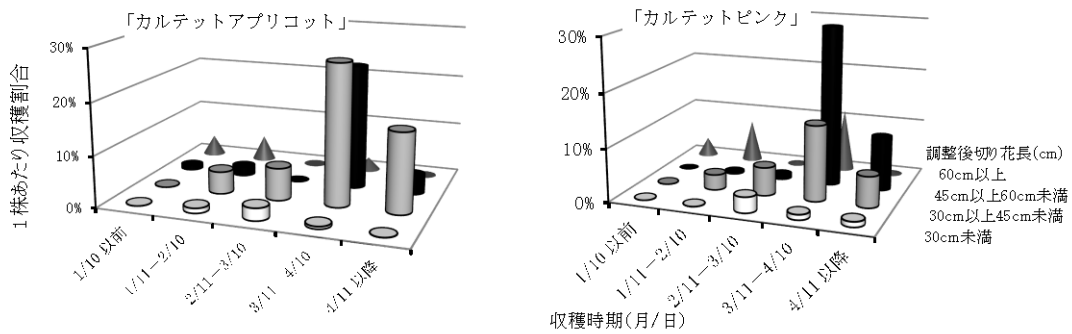


図3 「カルテットアプリコット、カルテットピンク」における株間20cm無摘心栽培の切り花長別収穫割合

表1 スプレーストック「カルテット」品種の切り花長と茎径に及ぼす株間と摘心処理の影響

株間	品種：「カルテットホワイト」			「カルテットアプリコット」			「カルテットピンク」			
	摘心処理	切り花長 ^a (cm)	調整率 (長さ%)	茎径(mm)	切り花長 (cm)	調整率 (長さ%)	茎径(mm)	切り花長 (cm)	調整率 (長さ%)	茎径(mm)
30cm	摘心	45.7	3.0	5.4	44.2	0.8	5.6	50.5	3.3	5.0
	無摘心	44.5	8.5	6.9	47.9	5.1	6.7	48.7	12.8	6.8
	t-test ^b	*		**	*		**	**		**
25cm	摘心	43.3	3.4	5.9	43.5	6.9	6.3	49.8	7.1	6.2
	無摘心	43.4	8.5	7.1	47.4	4.9	7.5	52.0	11.2	7.4
	t-test	ns		**	**		**	*		**
20cm	摘心	44.3	4.7	6.1	45.9	4.7	6.1	52.9	5.6	6.1
	無摘心	45.2	6.8	6.7	48.5	3.6	6.5	51.6	5.7	6.3
	t-test	**		**	*		*	**		ns

a) 切り花長は茎曲がり調整切除後に調査。調整率は調整前長さに占める切除部分の長さ比率(%)。

b) t-検定(n>99)により、'**'はα=0.01, '*'はα=0.05で摘心処理区間の数値に有意差有り。

'NS.'はα=0.05で有意差がないことを示す。